

第101回  
同志社グリークラブ  
定期演奏会

▽ Glee Club

2005年12月10日(土) 開演 18:00  
♪ 京都コンサートホール大ホール  
主催：同志社グリークラブ 後援：関西合唱連盟・京都府合唱連盟

*Doshisha College Song* Words by W.M.Vories  
Music by Carl Wilhelm

One Purpose, Doshisha, thy name  
Doth signify one lofty aim;  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land.  
Dear Alma Mater, sons of thine  
Shall be as branches to the vine;  
Thou through the world we wander far and wide,  
Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,  
We've learned the oneness of our Earth;  
Still higher than self-love we find  
The love and service of mankind.  
Dear Alma Mater, sons of thine  
Would strive to live the life divine;  
That we may with increasing years have stood  
For God, for Doshisha, and Brotherhood!



御挨拶

本日は、同志社グリークラブ第101回定期演奏会にお越し下さりまして、誠にありがとうございます。今年もまたこうして、皆様方に私たちの一年間の活動の集大成をお聴きいただけますことは、この上ない喜びであります。

ご存知の通り、私たち同志社グリークラブは昨年、100周年という節目の年を無事に終え、今年は新たな同志社グリークラブの時代の幕開けの年となりました。そしてこの一年間、部員一人一人がこれまでとはまた違ったプレッシャーを感じつつも懸命に努力と試行錯誤を重ね、新たな同志社グリークラブの可能性を模索してきました。しかし、その根底には、これまで多くの先輩方が培って来られた音楽、とりわけ男声合唱に対する真摯な態度を忘れることなく、「聴衆と一体となった音楽」を目指し続けることを目標にしてきました。この、先輩方が長い時間をかけて培って来られた伝統を今後の世代にもしっかりと伝え続けつつも、変わってしまうことを決して恐れずに新たな可能性にチャレンジして行きたいと考えております。

この一年間は本当にこれまでとは違った多くの経験を積むことが出来た年であったように思います。本日の演奏会では、この一年間で積み重ねてきたものを存分に発揮したいと思っております。そして、一人でも多くの方々に新たな同志社グリークラブをお伝えできますよう、心より願っております。

最後になりましたが、ご指導くださいました諸先生方、私たち現役部員のためにご支援くださいましたOBの諸先輩方はじめ、この演奏会を迎えるにあたってご協力くださいましたすべての方々、そして本日も来場いただきました皆様方に心よりお礼を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

同志社グリークラブ幹事長 吉岡 和哉

Doshisha College Song

作詞：W.M.Vories  
作曲：Carl Wilhelm

1st Stage 合唱のためのコンポジション第6番

I  
II  
III

作曲：間宮芳生  
指揮：小林崇諭

2nd Stage トルミス男声合唱曲集

Varjere, jumala, soasta (神よ、戦いから我々を守りたまえ)  
Kokko lenti Koillisešta (北東から鷺が舞った)  
Muistse Mere Laulud (古代の海の歌)

作曲：Veljo Tormis  
指揮：伊東恵司  
パーカッション：関口百合子

-INTERMISSION-

3rd Stage 現代邦人作品集～日本の新しい作品を求めて～

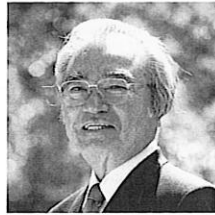
・光 作詩：工藤直子 作曲：松下 耕  
・虹 作詩：高見 順 作曲：木下牧子  
・鈴をおさめて 作詩：時雨音羽 作曲：中山晋平 編曲：信長貴富  
・Distinctive—くつきり— 作詩：木島 始 作曲：信長貴富  
・夢見たものは 作詩：立原道造 作曲：木下牧子  
・八木節 作曲：松下 耕

指揮：小林崇諭

4th Stage minimal— for male voices

A Song  
To Reject  
A Face  
Sitting  
Night  
And

作詩：谷川俊太郎  
英訳：William.I.Elliott  
川村和夫  
作曲：松下 耕  
指揮：松下 耕



同志社総長  
大谷 寛

第101回同志社グリークラブ定期演奏会が、京都コンサートホール大ホールに於いて盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは、1904（明治38）年の創部以来の歴史と伝統も有し、常に精力的に合唱活動を行ってきた同志社きっての名門クラブであります。

今年度もすでに、54回目の東西四大学合唱演奏会の開催や信州大学グリークラブ・北海道大学合唱団とのジョイントコンサートの開催など積極的な演奏活動を展開しているところです。さらに、様々な学内式典においても素晴らしい演奏を披露しており、今や同志社には欠くことのできない存在であり、総長として心から敬意を表するところです。

本日の演奏会においても、創部101年を迎えた伝統の力に裏打ちされた力強い歌声が、ご来場の皆様のご期待に十分に答えるものになると確信しております。

どうか今宵の合唱が、ご来場の皆様の心に深く響き渡り、神の恵みが豊かにありますようお祈りいたします。



同志社大学長  
八田 英二

第101回同志社グリークラブ定期演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは今年で創部101年を迎え、長い歴史と輝かしい伝統を保持し、同志社大学を代表するクラブとして様々な場において活躍しています。最近では、東西四大学合唱演奏会や、信州大学グリークラブ及び北海道大学合唱団とのジョイント・コンサートなどを通して、人々に多くの感動を与えてまいりました。

本日の演奏会におきましては、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、熱のこもったステージを展開してくれることを期待しています。ご来場いただきました皆様には部員の意気込みと情熱が伝われば幸いに存じます。

常日頃より部員の活動を支えていただいております諸先輩ならびに関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本日の演奏会の成功と同志社グリークラブの益々の発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



全日本合唱連盟理事長  
吉村 信良

同志社グリークラブ第101回定期演奏会おめでとう。

この夏「世界合唱の祭典・京都」が、みなさんのおかげで幸せな形で開催されました。世界の合唱仲間の熱い思いをしっかりと受け止めて、合唱ワールドのはてしない広がりを感じました。

同志社グリーの諸君、君たちは文化の担い手として今がスタートです。未来へ向けてさらに大きな歴史を作ってください。

すてきな音楽空間を心から楽しんでください。定期演奏会のご成功を心からお祈りいたします。



同志社グリークラブ顧問  
岸 基史

同志社グリークラブの第101回定期演奏会にお越しいただき有り難うございます。同志社グリーは昨年創立100周年を迎え、今回は同志社グリー新世紀の第1回定期演奏会となりました。今年には同志社創立130周年ですが、同志社グリーのルーツが1875年11月29日の同志社英学校の開校礼拝にまで遡ると考えますと、同志社グリーにとっても「創部130周年」にあたる記念すべき年と言えましょう。

さて、時代の流れの中で同志社は変容を続け、同志社とともに歩む同志社グリーも変化を続けています。しかし、何がどう変わろうとも同志社グリーは同志社グリーでなければなりません。ボストン・オールドサウス教会やラットランド・グレース教会、アーモスト大学を始め、新島スピリットの故郷であるニューイングランドへの演奏旅行を重ねてきた同志社グリーは、変わることはない真の新島スピリットを継承し続けるクラブです。

ともあれ、ご来場の皆様方には今日の定期演奏会を心ゆくまでお楽しみ頂きたいと思っております。同志社グリーへの皆様方の一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



同志社グリークラブOB会会長  
関西合唱連盟会長  
音楽評論家  
日下部 吉彦

### 新たな100年へのスタート

同志社グリークラブは、昨年、創立100周年を迎え、数々の記念行事、コンサートを成功させました。その長年の業績が評価され、去る10月、関西合唱連盟から、栄誉ある「長井賞」を頂き、OBのひとりとして、心から感謝しています。

そして今回第101回の定期演奏会となりました。新たな100年へのスタートとなったわけですが、同志社グリーがおかれている現在の環境は、決していいとはいえません。経済的な苦境、部員の減少など、大学の合唱界全体が受けている試練を、もろに蒙っているのです。

しかし、いま現役として頑張っている諸君は、懸命に努力しています。そして今回はとくに、これからの合唱界のトップリーダーのひとり松下耕先生に、新曲を書いて頂き、指揮までして頂くことになりました。松下先生、伊東恵司先輩のお力を、100パーセント借りて、立派なコンサートにして下さい。栄光の歴史と伝統を汚さないためにも。頑張れ！



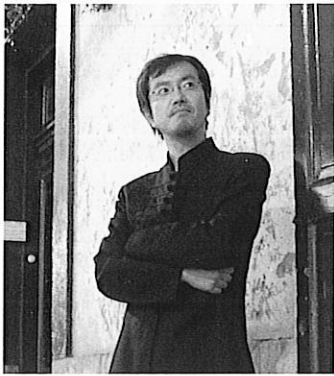
同志社グリークラブOB会理事長  
新井 克次

### 世紀を超えた旅立ちにエールを！

同志社グリークラブが創立百周年を迎えた昨年、本当に多くの皆様の心からの応援によって、OBと現役が一体となった記念事業を大成功に進めてまいることができました。そして今夜、次の百年への第一歩となる101回目の定期演奏会が開催され、百周年事業の締めくくりである松下耕先生への委嘱作品が、松下先生ご自身のタクトで披露されることとなり、この上ない喜びであります。

現役諸君は部員の減少で一人ひとりにかかる負担も大きいものと想像していますが、グリー創立者の片桐哲先生がグリークラブの名を冠して初めて歌われたのは、8名での男声三部合唱であったと聞いています。少人数であっても、少々声が割れようと、学生らしい息吹に満ちた演奏を期待しています。次の百年への第一歩となる新たな旅立ちに心からエールを送ります。

## 客演指揮者

松下 耕  
(まつした こう)

合唱指揮者、作曲家。国立音楽大学講師。東京都出身。  
作曲を島岡譲、鶴崎庚一、トーマス・マイヤー＝フィービッヒ、モハイ・ミクローシュ、指揮を高階正光、合唱指揮を故レメニ・ヤーノシュ、エルデイ・ペーテル、声楽をショモリアイ・パウラの各氏に師事。

合唱作品の作曲・編曲活動を精力的に行っており、作品は国内のみならず、ヨーロッパ及びアジア各国でも演奏されている。日本の民俗音楽についての研究も行っている為、民謡などを題材とした作品も数多い。

ライフワークとして、『耳を育てる合唱練習』というテーマで、効果的なハーモニー作りの方法を研究しており、コーラスショップやシンポジウムなど、国内外の合唱講習会において、同テーマをわかりやすく多くの合唱ファンに伝えている。また全日本合唱連盟、NHKの合唱コンクールや、東京文化会館合唱曲作曲コンクール等の審査員、選考委員も務めている。とくに今年は、京都(第7回世界合唱シンポジウム)での様々な活動や、軽井沢合唱フェスティバルでの音楽監督といった活動をも精力的に行った。

現在、首都圏を中心に10の合唱団の常任指揮及び音楽監督を務め、指導する団体の多くが国内外のコンクールで優秀な成績を収めている。

2005年『Robert Elder Prize 2005』をアジアで初めて受賞。

101回、という長きにわたり、男声合唱の魂を守り抜いてこられた同志社グリーの方々、この度は定期演奏会のご開催誠にありがとうございます。栄光ある合唱団のために曲を書かせていただくことが出来、私は今幸せを噛み締めております。ありがとうございました。

今回、私が書かせていただいた曲は、英語のテキストによる作品です。作品の解説にも書かせていただきましたが、英語である、ということ、より開放された、自由なエクスペッションの放出を期待しています。また、同時に、この曲は、日本国内のみならず、広く海外でも歌っていただくことが出来、国境を越えて理解の輪を広げてゆくことが可能かと思えます。日本の男声合唱団の活動の幅を広める一翼を、この曲が担うことが出来れば、私は望外の喜びを感じるのであります。この曲を書かせてくださった、伊東恵司さんと、同志社グリーの皆さんに、心から感謝申し上げます。また、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

## 指揮者

伊東 恵司  
(いとう けいし)

90年同志社大学を卒業(ポストモダン芸術論を専攻)。在学中「同志社グリークラブ」58代学生指揮者として(故)福永陽一郎に師事。90年以降「淀川混声合唱団」「合唱団：葡萄の樹」「暇ジュニアハーモニー」はじめ児童を含めて多数の団体の指揮者として活躍中。全日本合唱コンクールでは「なにわコラリアーズ」が7年連続の金賞を受賞(6年連続シード権獲得、01,04年度:文部科学大臣奨励賞受賞)。本年度は「アンサンブルVINE」とのダブルでの金賞受賞で大きな話題となる。宝塚国際室内合唱コンクールでは「Ensemble Vine」を率いて2度の[総合3位]を受賞、20周年記念大会で「なにわコラリアーズ(室内アンサンブル)」を率いてグランプリ[総合1位]を獲得している。近年は大学合唱団の指導や「アルティ声楽アンサンブル」の実行委員長を務めるなど、関西を代表する若手指導者として活躍の場を広げている。多彩で豊富なレパートリーに加え、柔軟な練習方法と繊細な音楽作りには定評がある。大阪府合唱連盟理事。京都府合唱連盟理事。

同志社グリークラブは101回目の定期演奏会を迎えます。

何度も述べてきていますが、ただ単に長いことに価値があるのではなく、その年々のメンバーがクラブの活動や音楽というものに対して「ひたむきな」努力をしてきたこと、毎年後輩に受け継がれていくグリーの財産を磨いてきたことにこそ価値があるのでしょう。

見ての通り、様々な事情から同志社グリーのメンバーの減少に歯止めがかからない状態が続いております。私が、卒業後初めてその舞台に立つことになった今年の6月の東西四大学合唱演奏会単独演奏では、なんと四連史上最低となる19人のメンバーで2000人以上を集客する人見記念講堂の大舞台で歌うことになりました。どうしても上手いかず、皆の姿勢にも納得がいかないので珍しく深夜にまで及んだ練習を経てのぞんだ本番ステージでは、一人一人の(まさに命がけといえる)懸命な歌が同志社グリークラブの伝統を「必死で受け継いでいこう」という気持ちに満ちた熱唱に繋がったとも思っております。多くのOBから「この人数でよくがんばってくれた！本当に感動した！ありがとう！」とねぎらってもらえたことは、現役にはもちろん、この少なさにどうして良いかわからず、闇をかき分けるようにして後輩に必死に道を示そうとしていた私自身にもとても嬉しい声援となりました。

大学のクラブ自主活動そのものが大きな岐路に差し掛かっている現在、周りの大人やOBたちが、どのようにエンカレッジしていくかということが重要になってくると思います。がんばるのは学生たち！しかし、力強い声援を送り続けることで学生たちが「ひたむきさ」を信じることで、自信をもって自分の足で前に進んで行くこと、に期待したいと思っています。

## ヴォイストレーナー

二塚 直紀  
(につか なおき)

大阪芸術大学卒業。関西二期会オペラスタジオ修了。仁禮義子氏に師事。第15回摂津音楽祭・聴衆審査賞受賞。第32回イタリア声楽コンクール・ミラノ部門入選。「フィガロの結婚」ドン・クルツィオ役でオペラデビュー後、「ラ・ディヴィーナ」若手指揮者役、「マリツァ伯爵夫人」タシロ・エンドレディ役、「メリー・ウィドウ」カミーユ・ロション役、「ポッペアの戴冠」ローマ皇帝ネローネ役、「秘密の結婚」パオリーノ役、「ジャンニ・スキッキ」リヌッチョ役に出演し好評を博している。また、ベートーヴェン「第九」、メンデルスゾーン「交響曲第2番」のソリストなど各種演奏会に出演。関西二期会正会員。びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手。オペラハウス合唱団準団員。第23回飯塚新人音楽コンクール第1位、平成16年度大阪舞台芸術新人賞受賞。

今年からヴォイストレーナーとしてこの伝統ある同志社グリークラブに参加させて頂いていますが、初めてクラブのメンバーにお会いした時から、本当に気持ちのいい子達ばかりでこのグリークラブが大好きです。素直で真面目で何事にも真剣なメンバーです。諸先輩方から良い伝統が受け継がれているお陰だろうと思います。彼らは100回目という節目を経て新たな一歩を踏み出します。この素晴らしい伝統を生かしつつ、もっと素敵なおクラブになるようにメンバーと共に頑張っていきますので、どうぞ指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。

グリークラブの皆様、本日は第101回定期演奏会まことにありがとうございます。本番の舞台、心から楽しんでください。そして、みんなの気持ちを一つに集め、舞台上から解放して客席のお客さまにお届けしましょう。

パーカッション  
関口 百合子  
(せきぐち ゆりこ)

中学より打楽器を始め、大阪府立夕陽丘高校音楽科に入学。同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻打楽器卒業。同音楽学会《頌啓会》特別専修過程修了。

2004年、関西より代表に選ばれ、第20回日本打楽器協会主催新人演奏会に出演し、グランプリを受賞。同6月よりアメリカウィンドシンフォニーオーケストラのツアーに日本人打楽器奏者として参加し、1ヵ月半にわたりアメリカ各地で演奏する。ソロ、アンサンブル、オーケストラなどで活動中。

奥原光、後藤由里子、種谷陸子、中谷満、山口恭範の各氏に師事。

第101回定期演奏会おめでとうございます。歴史深い同志社グリークラブの演奏会に参加できることを大変嬉しく思っております。

グリークラブとは今年の6月に初めて共演させて頂いたのですが、男声合唱の音域、音色の豊かさに驚きました。今度もどんな合唱を聴かせていただけるのか、一緒にどんな音楽を奏でられるのか楽しみにしております。会場まるごとエストニアの空気にできれば良いなと思っています。

最後になりましたが、同志社グリークラブの皆様のご発展ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

お求めは：  
 京都店(四条富小路角)  
 京都駅前店(守・キユーブ内)  
 京都ホルタ店・京都アパテイ店  
 大丸京都店・大丸山科店  
 近鉄京都店・近鉄桃山店  
 福寿園CHA研究センター  
 京都府木津町相楽台三丁目一三  
 関西文化学術研究都市市内  
 本社・工場  
 京都府山崎町上粕東作道一  
 110774(八六三九〇一)  
 http://www.fukujuen.com

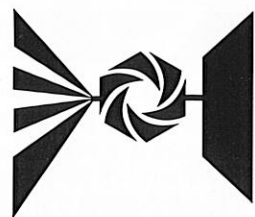


おいしいお茶  
 お詰めは  
 京都  
 福寿園でございます。



## きらめく瞬間を未来に伝えたい。

あなたのきらめくその一瞬を素敵にとらえる。  
 未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、  
 いつもいっしょうけんめいのお阪フォトサービスです。



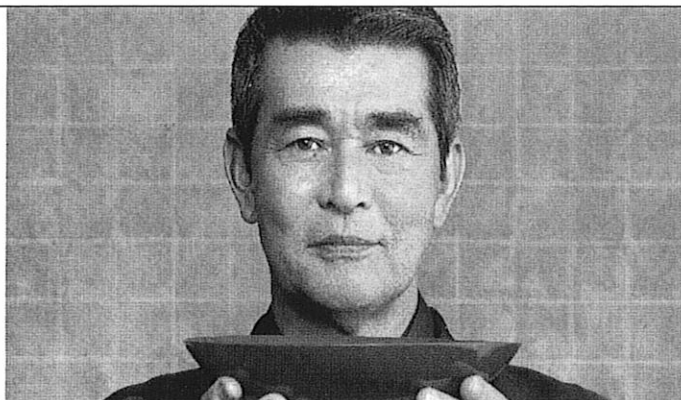
OSAKA PHOTO SERVICE

株式会社 大阪フォトサービス

〒550-0006 大阪市西区江之子島1丁目5-17  
 TEL (06)6443-7608 FAX (06)6443-4437

http://www.osakaphoto.co.jp/ E-mail:sales@osakaphoto.co.jp

よろこびの清酒  
 松竹梅



よろこびは、  
 ここにある。

宝酒造株式会社 お酒は20歳を過ぎてから。のんだあとはリサイクル。

名物 田毎そば

KYOTO  
 御蕎麦

SINCE 1867



三条本店 三条通寺町東入 ☎221-3030 ●営業時間 午前11時~午後9時迄  
 府庁前店 京都府庁正門前 ☎255-7775

## あなたの記念日を映像に!!

ビデオ工房スピカは、高画質・高音質を目指しています  
**コンサート・結婚式・各種パーティー撮影**

DVD VHS コンピューター用ビデオCD 音楽CD制作

ヨーロッパ向けPAL-DVD変換 VHS・ベータ等のDVD変換  
 レコード・テープのCD変換など各種サービス

格安料金  
 お問い合わせください

**本日も撮影中**

同志社グリークラブ昭和44年卒業



ビデオ工房スピカ 藤田和久

〒563-0036 池田市豊島北2丁目3番23号 TEL 072-763-2510  
 mailto:savo@cup.com FAX 072-763-2513

スピカとは乙女座の1等星  
 ラテン語で「麦の穂」という意味

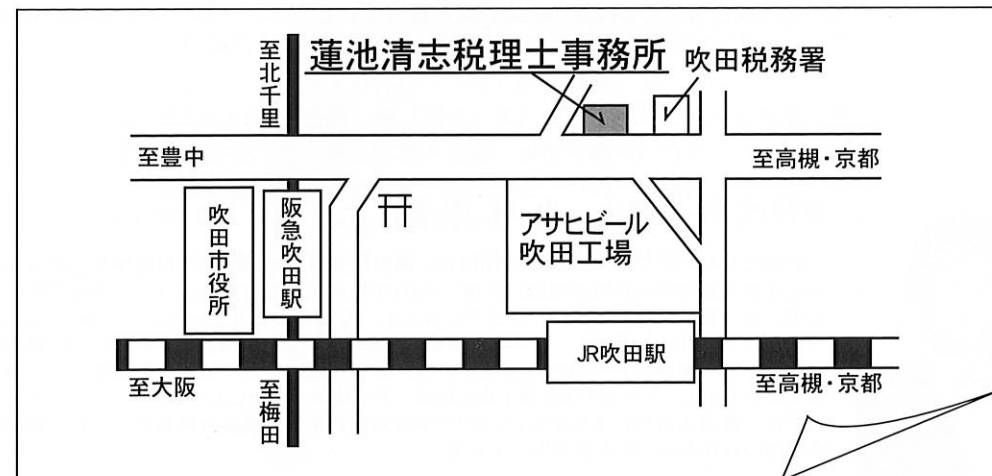
## 蓮池 清志 税理士事務所

税理士 蓮池 清志

〒564-0082 大阪府吹田市片山町3-1-11

TEL 06(6389)5666

FAX 06(6330)6367



## 合唱のためのコンポジション第6番

指揮：小林崇諭

第1楽章は、岩手県の稗搦唄を土台にしている。民族的なポリフォニーの可能性への第一の着手である。

第2楽章は、青森県八戸の神楽のうちの権現舞のうたによっている。プレストの楽章で、阿波踊りと同系のリズムである。

第3楽章は二つの部分からなる。前半は、兵庫県亀岡神社の芸能を素材としている。声明のようで、のりとのようで、和讃のようでもある。後半の男性的で勇壮な掛け声だけの部分は、大分県の大漁鱒囃子によっている。  
(作曲者しるすより抜粋)

間宮芳生(まみやみちお 1929~) 1952年東京音楽学校卒。作曲を池内友次郎に師事。彼は日本の民族音楽の客観的な分析研究も行い民族派とも称されるが、近年はジャズや非ヨーロッパ音楽を含めた背景のもとに作品を発表、いっそう独自の世界を築いている。身近なところでは、映画などのBGMなども手がけている。

戦後の日本合唱界における間宮芳生の存在というものはとても大きなもので、特にその作品群「合唱のためのコンポジション」シリーズは現在16作品まで完成しており、そのうち男声の作品は3、6、14番である。この作品群に利用されている素材は、日本や世界各国に古くから伝わっている民謡やその他にある「はやしことば」に依っており、作品中に叫び声や笑い声など、それまで合唱作品には使われることのなかった前衛的な技法が使われている。

近年、ヨーロッパ芸術音楽とは異なるシステムや表現様式を持った民族の音楽への興味や関心が、青年層を中心に率直な共感を呼び、共鳴しはじめている。民衆の必要から直接生み出され、ささやかではあっても彼らの必要にぴったりした完成された形態が、彼ら自身によって見つけ出された芸術である。合唱作品の大きなジャンルの中の一つに民族音楽があるわけだが、民衆の中から生み出された音楽が、民衆によって演奏される。とてつもないメッセージ性をもつサウンドが響き渡るのである。この芸術は、生まれた土地に根付き、外部の何者にも負うところがなく、何よりも今日のわれわれに語るべき何かを持ち、21世紀の現在に美と活力を示すことのできる芸術なのではないだろうか。

われわれはこの作品を、二月に開催されたフェアウェルコンサートで発表してから、八月に行われた北海道大学、信州大学とのジョイントコンサート、そして今日の定期演奏会と、一年のあいだ演奏し、磨き上げてきた。今年一年間の集大成とも言える演奏が出来ればと思っている。  
(小林崇諭)



第74代学生指揮者 小林崇諭 (こばやし たかつぐ)

同志社グリークラブ第74代学生指揮者。同志社大学文学部文化学科美学及芸術学専攻四回生。宇都宮高校時代には合唱部に所属。2001年栃木県学生音楽コンクール声楽部門においては第二位受賞を果たす。グリークラブ以外にも、なにわコラリアーズや、合唱団LABOなどのコンクール活動にも参加し、本年はDoshisha Youth Choirを主宰。日本の伝統的民謡からクラシック、北・東欧などの現代音楽等を学ぶ。美学芸術学ゼミでは音楽学を専攻し、合唱練習法を伊東恵司氏、発声法を浅井順子氏に師事。その経験を生かして今日の学生のスタイルにあった発声、練習法研究に余念がない。2005年度京都府学生指揮者会代表をつとめ、京都の大学合唱団の技術力向上にも目を向けている。

## Veljo Tormis男声合唱曲集

指揮：伊東恵司

合唱王国エストニアの誇る最も著名な作曲家の一人、Veljo Tormisは1930年に生まれた。農家の長男であったが、父母ともに教会音楽や合唱と深い関わりを持っておりエストニアの豊かな合唱文化は幼いトルミスにたつぷりと影響を与えたと思われる。12歳の時オルガンの勉強のために首都のタリン(Tallinn)に出、戦後1951-1954にモスクワで作曲を勉強。50年代後半のOrff音楽への感銘、62年のハンガリー滞在とKodalyの合唱研究を経て、作曲家としての基礎を固める。1967年のEstonian Calendar Songでは民族的旋律をオリジナルの形のままで合唱曲の材料として利用しているが、この作品が大きな転機となり、以後のTormisの作風を決定的なものにしていったと言える。

## ○ Varjere, jumala, soasta (神よ、戦いから我々を守りたまえ)

「カレワラ」はフィン民族の心の支えとも言うべき叙事詩として有名であるが、フィンランドと民族的ルーツを共にするエストニアの人々の中でもその存在は重要であり、トルミスの作品にもカレワラの影響は色濃く見受けられる。この曲はカレワラと同時期に編纂された抒情詩集「カンテレタル」から取られた詩に作曲された。「カレワラの」の詩(メロディー)が歌い継がれてきたのと同じく5拍子でかかれ、単純な繰り返しの中に抑圧の歴史に耐えた「バルトの人々」の民族としての叫びが込められている。

## ○ Kokko lenti Koillisešta (北東から鷺が舞った)

フィンランドの東部、カレリア地方に伝わる婚礼の歌である。一つの旋律の最後から次の旋律を紡ぎ出す伝統的なカレワラの歌い方を用いており、シンプルながら2つのメロディーを交錯させるように作曲されている。

## ○ Muistse Mere Laulud (古代の海の歌)

エストニアはフィンランドと海を隔てた大陸の沿岸部に位置しているが、エストニア人にとって古代から「海」は「豊饒」や「安らぎ」の象徴として、また同時に「畏怖」や「荒々しさ」の象徴として人々の生活に密接に関わってきた。この作品は様々な海の表情を歌った詩をモチーフとしてシンプルな音構造を組み合わせ、あたかも一つの「叙事詩」であるかのようなストーリーと性と音のうねりをもった曲として仕上げられている。トルミスの代表作としても知られている男声合唱の傑作であると言える。

(伊東恵司)

I Varjele,Jumala,Soasta  
"Kanteletar"II:323,326

Varjele,vakainen Luoja,  
kaitse,kaunoinen Jumala

kavioista vainovarsain  
sorkista sotahevosten,  
rauan valkian varasta,  
terän tuiman tutkaimesta,  
tykin suuren suun e'estä,  
rautakirnujen kiasta,  
suurilta sotaqueoilta,  
uron tappotanterilta,  
varjele vahingon teiltä,  
kaitse kaikista pahoista!

Varjele,vakainen Luoja,  
kaitse,kaunoinen Jumala!

II Kokko lenti koillisešta  
(karjalainen häärüno)

Kokko lenti koillisešta,  
havulintu halki maita,  
šiivi taivaišta jakeli,  
toini mertä kruupošteli.  
Liitelekše,luotelekše,  
liiti linnan ikkunalla,  
šeinalla on sel'ona šulka,  
šatašulka šalvokšilla.

Mistä tiešit,tietomoini,  
kuulit,kultani omena,  
tämän neijen šyntynehen,  
šyntynehen,kašvanehen?

Noki nousi nuorasešta,  
šavu paksu še pakeni  
neijen kuulusan kojista.  
Pihlajikko pirtin piällä,  
tuomikko truvan takana  
neijen kuulusan kojissa.

Pois,pojat,ulos,urohot,  
miehet pitimmät pihalla!  
Naimakansa kartanolla,  
naimakansa kartanolla!

神よ、戦いから我々を守りたまえ  
—カンテラルより—

守り給え、強き神よ、  
防ぎ給え、美しき創り主よ

ロバのひづめから  
戦いの馬の割れたひづめから、  
鉄の白いくずから、  
堅くいかめしい刃から、  
大砲の大きな口から、  
鉄の鎖から、  
巨大な戦場から、  
殺人の庭から、  
守り給え 傷ついた道から、  
防ぎ給え 全ての悪から！

守り給え、強き神よ、  
防ぎ給え、美しき創り主よ！

北東から鷺が舞った  
—カレリア地方の婚礼の歌—

北東から鷺が舞った、  
鷹が大地を横切った、  
つばさが空を分ける、  
もう一方のつばさは海を直断する。  
それは滑らかに、静かに飛び、  
城の窓にすべり込んだ、  
一本の羽が壁のくぼみに、  
そして百本の羽はまがり角に。

どうしてあなたは知ったの、賢い人よ、  
どうしてあなたは聴いたの、金のリングを、  
この娘が生まれたことを、  
そして生まれ育ったことを？

煤が引き綱から上がる、  
煙が雲となって逃げる  
名高い娘の家から。  
ななかまどが庭に育つ、  
鳥が小屋のかげでさえずる  
名高い娘の家に。

少年たちよ、去れ、男たちよ、出ろ、  
長男の男たちよ、庭へ！  
婚礼の群衆が庭に、  
婚礼の群衆が庭に！

III Muistese Mere Laulud 古代の海の歌

iilid tõusevad idasta  
teised tõusevad kagusta  
kolmandad veel lõuna'asta  
kui need kolmed kokku saavad  
siis nad vihma veeretavad  
pilved laineida lasevad  
sajavad savised pilved  
tinakarvased tibavad  
mustad muidu hirmutavad

mina aga mees meremehe  
poega kallis mees kalamehe  
poega küll mina tunnen  
tuuled nõuda mered sõuda  
põhjatuufta purjetada  
lõunatuufta lütia loovi  
servi tuufta seisatada  
vastu päevada puhata

purjed üles!

purjetan Punasta merda  
rohelist Rootsia merda  
tormilista Turja merda  
hargilista Harju merda  
Viru merda virgejada  
oma merda õigejada

Ahoi!

tule aga tule tursukene  
merepõhja pörsukene

tule minu kuldse koogu otsa  
hõbedase õnge otsa  
meri meid söötanud  
meri meid jootnud  
meri on võtnud  
mitu meest

oli mui kolmi vennakesta  
ühe mina saatsin karjamaale  
teise saatsin marjamaale  
kolmanda kalamerele  
vend tuli koju karjamaalta  
teine venda marjamaalta  
ei tuined kalamerelta  
vesi oli viinud multa venna  
vesi viinud tuul ajanud  
kallas kõrge kaotanud

突風が東から吹く  
次は南東からも吹く  
三つ目が南から吹く  
この三つが揃ったとき  
雨を降らせる  
雲と波を作る  
百の粘土の雲  
鉛の雨  
暗黒と畏れ

そう私は海の男  
愛しい漁師の息子  
私のよく知っている息子  
風にせかされ海を行く  
北風に帆を上げる  
南風に帆を開く  
斜めからの風が止む  
一日中風いだまま

帆を上げろ！

進むは紅の海  
緑色のスウェーデンの海  
荒れ狂うトゥルヤの海  
うねるハルユの海  
ヴィルの海では眠れない  
自分の海では落ち着ける

アホーイ！

出でよかわいい鱈よ  
北の海の小さな使者

わたしの黄金の針にかかれ  
銀の釣り針にかかれ  
海は我らに食べものを与える  
海は我らに水を与える  
しかし海は奪い取る  
何人も人間を

私には3人の兄弟が居た  
一番目は放牧に行った  
二番目は森へ行った  
三番目は海で魚を釣った  
一番目が放牧から帰ってきた  
二番目が森から帰ってきた  
だが海釣りからは帰らない  
水が兄弟を飲み込んだ  
水に飲み込まれ風にさらわれた  
高波にさらわれた

kuu ma nutsin venna kuube  
päeva nutsin venna pärga  
eluoja vennakesta

ei saa rannassa magada  
rannas on mere mürina  
kajak kajak kajak  
hüüdvad hülged laulvad lagled  
karjuvad mere kajakad

tõuske üles rannarahvad  
ärgake mereisandad  
ärgake mereemandad  
tõuske võttemaie  
kalanoota katsumaie

Ankur, legoo!

meri tõuseb tormamaie  
randa hakkab raksumaie  
merekivid kilkamaie  
rannapaed paukumaie

ei ole luba tuulel tulla  
tuulel tulla lainel lassa  
lainel lassa saul sadada  
pahal ilmal paugudella  
mul on vendani vesillä  
ode on mere onilla  
taati on mere tagana  
emä hellä Helsingissä

las tuleb vendani vesiltä  
ode tuleb mere onilta  
taati tuleb mere taganta  
emä hellä Helsingistä

siis on luba tuulel tulla  
tuulel tulla lainel lassa

selgi ilmakene  
selgi ilma  
klaari taevas lahkeeksi  
vaari taevas valgeeksi  
selgi ilma...

一ヶ月兄弟の服を見て泣いた  
一日中兄弟の花輪に泣いた  
一生兄弟のことを忘れない

岸辺で眠ることはできない  
岸辺には波音が轟く  
カヤッ カヤッ カヤッ  
叫ぶアザラシ 歌うコクガン  
鳴くカモメ

目覚めよ、海辺の人々  
海の父を起こせ  
海の母を起こせ  
早く網を仕掛けよ  
魚を捕まえよ

錨をあげろ 出発！

海は荒れてきた  
波は岸に打ち寄せ砕ける  
石ころは転がる  
岸辺は跳ねる

だが風が吹かない  
風が吹けば波が打ち寄せる  
波が打ち寄せれば雨が降る  
ひどい天気になってきた  
兄弟は海の中  
姉妹は海の底  
父は海の向こう  
母は遥かヘルシンキ

兄弟が海の中から帰ってきた  
姉妹が海の底から帰ってきた  
父が海の向こうから帰ってきた  
母が遥かヘルシンキから帰ってきた

これで風も吹くだろう  
風が吹けば波が打ち寄せる

澄み切った小さな世界  
澄み切った世界  
透き通る天の穂やかさ  
穏やかな天の白さ  
澄み切った世界...

## 現代邦人作品集～日本の新しい作品を求めて～

指揮：小林 崇 諭

・「合唱のためのたのしいエチュード」より、「光が」  
同声3部合唱によるカノンを中心に構成されている。この作品は教会旋法による音構造によって旋律がつくられている。

・「いつからか野に立って 無伴奏男声合唱組曲」より、「虹」  
2003年信州大学グリークラブによる委嘱作品。テキストは高見順が比較的早い時期に書いた詩から採られた。

・「無伴奏男声合唱による日本名歌集 ノスタルジア」より、「鉾をおさめて」  
歌詞の内容は、鯨漁をテーマにしたものであるが、「母へ港へ」という一節と、「出船の港と利尻島」という著書のなかで「人々の青春から故郷の母へ捧げる歌でもある」と書いていることから、母への慕情が詩の中に隠されていると読むこともできる。

・「Voice 無伴奏男声合唱のための」より「Distinctive～くっきり～」  
非常に遅いテンポでの冒頭部分では、ユニゾンする声部の減少と、和音の複雑化により、声が空間に満ちていく様子が表現されている。木々の間から光が射すようにソリストの声が降り注ぐ。後半部では3連符にあらわれる推進力が与えられ、エネルギーに満ちていく。総タイトルである「Voice」はこの詩から採ったものである。

・「夢みたものは」  
作曲者の知人にお祝い事があった折、作曲者が贈った作品。オリジナルは混声版で、アンコール・ピースとして非常に有名な曲であるが、今年出版された「リーダーシャッツ21男声合唱篇」のために男声版が編集された。

・「同声合唱のためのコンポジション 日本の民謡1」より「八木節」  
栃木県八木地方、およびそれに隣接する群馬県太田地方、さらに埼玉県北部の県境で歌われている盆踊歌。この作品は同声3部合唱用の編曲である。2声が5度音程によるスキヤットでリズムを刻み、残りの1声が高らかに主旋律を歌い上げる。曲中にちりばめられたシンコペーションによって、民謡の粋を超えたハイセンスな作品に仕上がっている。

このステージでは、日本人作曲家によってここ数年の間に作曲、編曲された親しみやすい作品（一部英語を含んではいるが）を取り上げる。今年の定期演奏会では、取り上げるすべての曲目が現代を生きる作曲家による作品である。音楽作品を演奏する際に、その作品の創造主である作曲家がわれわれと同時代を生きているということは、とても重要な意味を持つように思う。作品を取り上げる際には、楽譜から読み取れる内容以外にも、作曲時の時代、作曲家の性格、作品の成立背景など様々なことを考えなくてはならない。これらのことを考察する際に、作曲家が同時代を生きているということは、イデオロギーを近くするということであり、演奏者が作品を演奏するときにサウンドに込められるメッセージ性は大きなものになると思うのである。

われわれが21世紀を迎えてから今日に至るまで、日本国内における大学男声合唱団の人口は総じて減っているばかり、というのが実情であるように思われる。物理的な問題として新入部員の大量獲得というのは全員でももちろん考えなければならないことではあるが、現実問題として音楽的レベルの低下を防ぐ手立てを考えなければならない技術系は頭を抱えている。人数は減れど、音楽的レベルは決して落とすことができないのである。落とすたくないのである。指揮者であるわたしを含め、今年度の四回生は、今年は徹底して団員の基礎レベル向上に努めるという技術的方針で考えはまとまっていた。19人でオンステした東西四大学合唱演奏会や、今回の定期演奏会では、それまでに得てきた知識をフルに使って選曲にこだわった。「歌って、取り組んで勉強になり、技術の向上につながり、世界が広がり、その上聴衆に感動してもらえる作品はないものか」。この視点が選曲のネックであったと思う。わたしは合唱というものは、言語学、

音楽学、社会学、地理、人間学など、さまざまな学問が絡み合っ成立しており、それらを学ぶことのできるすばらしい文化活動だと思ってやまない。

合唱人口は減少して、社会情勢がわれわれの活動に対して暗い影を落とそうと、それに負けず、明るい気持ちで粘り強く音楽活動に取り組んでほしいと思うのである。今年の定期演奏会では、全曲アカペラの選曲となった。おそらく私を知る限り、しばらく全曲アカペラの定期演奏会はなかったように思う。今年の定期演奏会では、人数の減っているわれわれにとっては挑戦であったが、102年目以降、これからの新しい同グリの音楽を作る担い手である下回生のアンサンブル能力を鍛えられるアカペラ作品のみに集中して取り組む選択をした。

第3ステージは、これらのようなことを感じ取ってほしく、選んだ曲目である。 (小林崇諭)

## 光が

光が  
五月の風に乗って  
地球に  
あそびにきた  
地球は  
みどり色のはくしゅで  
光をむかえ  
みつめあい・・・微笑む

金の扇の 波波波に  
縄のたすきで 故郷の踊り  
男男の 血は湧き上がる

夢みたものは ひとつの愛  
ながつたものは ひとつの幸福  
それらはすべてここに ある と

エンヤッサ エンヤッサ  
ヤンレッサ ヤンレッサ  
躍り疲れて 島かと思れば  
母へ港へ 土産の鯨

## 八木節

ハア国は上洲 佐位郡にて  
音にきこえし 国定村の  
博徒忠治の 生立ちこそは  
親の代まで 名主をつとめ  
人に知られし 大身なるが  
大事息子は 即ち忠治  
蝶よ花よと 育てるうちに

## Distinctive—くっきり—

voice  
with animated  
content  
is a tree

くっきり

なかみが  
浮立つ  
声は  
樹木だ

## 夢みたものは

夢みたものは ひとつの幸福  
ねがつたものは ひとつの愛  
山なみのあちらにも しづかな村がある  
明るい日曜日の青い空がある

日傘をさした 田舎の娘らが  
着かざつて 唄をうたつてゐる  
大きなまるい輪をかいて  
田舎の娘らが 踊ををどつてゐる

告げて うたつてゐるのは  
青い翼の一片の小鳥  
低い枝で うたつてゐる

ハア二十五才は 厄年なれば  
全て万事に 大事を取れと  
丁度その頃 無宿の頭  
音にきこえた 島村伊三  
彼と争う その始まりは  
かすり場につき 三度も四度も  
虫をこらえて がまんをしたが

ハア一の子分で 文三がきかぬ  
首をまつの 引導舟を  
腰に差したる 商売なれば  
飯の喰い上げ 捨ておかれんと  
きいて忠治は 小首をかしげ  
きればこれから 喧嘩の用意  
いずれ頼むと 強者ばかり

ハア頃は午年 七月二日  
鎖りかたばら 着込みを着し  
わらじきゃはんで 身軽の仕度  
伊達の鉢巻 皆それぞれに  
手勢すぐつて 境の町で  
様子伺う 忍の人数  
それと知らずに 島村伊三

## 鉾をおさめて

鉾をおさめて 日の丸上げて  
胸をドンと打ちゃ 夜明けの風が  
そよそよと 身に沁みわたる

灘の生酒に 肴は鯨  
樽を叩いて 故郷の唄に  
ゆらりゆらりと 日は舞い上る



## minimal-for male voices

指揮：松下 耕

この度初演していただくにあたり、この曲"minimal"についての楽曲解説を、というリクエストをいただいた。

しかし私は、自分の作品について解説することをあまり得意としてはいない。もちろん、"合唱のためのエチュード"などは、その必要性から、エクリチュールについて言及しなければならないが、この度同志社に書かせていただいた曲は、芸術分野におかれるべき作品であり、だからこそ私はこの曲についての"解説"はし難いものである。また、多くのお客様が、この作品を耳にする前に、この拙文をお読みになるのだから、詳しく述べることはやはりしたくない。写真のキャプションを先に読んでほしいカメラマンは、居まい。

だから、私は、この曲の誕生のいきさつを少しだけお話ししよう、と思う。

畏友、伊東恵司氏から委嘱のお話をいただいたとき、彼は「『男声合唱版・合唱のためのエチュード』のような曲を」と仰った。私も、頭の中で随分このことを考え、その必要性を鑑みて製作に移ろうとしたのだが、私にはどうしても音化させたいテキストを温めていて、それを知的でクールな、若い男声合唱団に演奏してほしいと思っていたのだが、それがこの"minimal"だったわけだ。同志社の方々に演奏していただく、ということは、私の願いにぴったりとはまっている。

エチュード的な要素、としては、一曲の長さがそれほど長大ではないこと、すべてア・カペラ作品であること、少人数でも演奏可能なこと、などが挙げられようが、私としては「啓蒙的」な楽曲からは逸脱してしまったように思っている。その点で、伊東さんの想いとは多少かけ離れた作品となってしまったかもしれないが、これはこれで、ある個性的な表情を成しているのではなかろうか、と思っている。

歌詩は、谷川氏の詩の英訳をテキストとした。日本人が、日本人に対して英語の詩に曲をつける、ということは、ある呪縛から開放されて、より自由な表現が可能になるのではないか、と思った。実際、日本語のテキストでは表現しにくいパッセージを盛り込むことが出来た。このことは、演奏上も同じことが言えるのではないか、と期待するところである。

"minimal"は、その中に"maximal"な表現の可能性を秘めているのである。

では、みなさん、実際の音をお楽しみください。

(松下 耕)

## 『A Song』

Someone is singing me  
in cloud tones and the harmony of trees.  
Someday it will stop, the heart's pulse.  
But the song will go on in praise of you.  
The water's melody flows along the riverbed.  
Over the ruins the pause of night resounds.

## 『To Reject』

A mountain does not reject poetry,  
nor do clouds, water or stars.  
It's always people that reject it,  
in fear, in hatred and with verbosity.

## 『歌』

誰かが 私を 歌っている  
雲の調べで 木々の 和音で  
いつかやむ 心臓の 韻律  
だが歌は続く 君を 讃えて  
川底に 流れる 水の旋律  
廃墟に 響く 夜の休止符

## 『拒む』

山は 詩歌を 拒まない  
雲も 水も 星々も  
拒むのは いつも ヒト  
恐怖で 憎しみで 饒舌で

## 『A Face』

A Face—  
the only one  
in the world…  
A Face—  
an outcropping  
of destiny…  
Baffled  
by the faint light  
in the depth of the mirror,  
unable  
to seek  
another face,  
I wait  
in the night of the heart,  
for the last sunrise.

## 『sitting』

I'm sitting on a sofa  
like a shelled clam  
this partly cloudy afternoon  
I have things to do  
but, mesmerized,  
I do nothing.  
Beautiful things are beautiful.  
Even ugly things  
have something beautiful about them.  
Just being here  
is fantastic  
and I cease being myself.  
I stand up  
and drink some water.  
Water is also fantastic

## 『Night』

At night from somewhere comes the sound  
of boiling water.  
A mere trace of poison is a medicine.  
People unwittingly invade others.  
The heart flows on without words  
towards someone, towards darkness,  
towards a faint light.

## 『And』

when summer comes  
the cicadas  
sing again.  
Fireworks  
freeze  
in my memory.  
Distant countries are dim  
but the universe  
is right in front of your nose.  
What a blessing  
that people  
can die  
leaving behind  
only the conjunction  
'and.'

## 『顔』

顔  
世界で  
ただひとつ  
顔  
露頭した  
運命  
鏡の奥の  
薄明に  
惑い  
もうひとつの  
顔を  
探しあぐねて  
心の夜に  
最後の  
日の出を待つ

## 『座る』

ソファに座っている  
薄曇りの午後  
剥き身の蛤みたいに  
しなければいけないことがある  
だが何もしない  
うっとり  
美しいものは美しく  
醜いものも  
どこか美しく  
ただここにいることが  
凄くて  
私は私じゃなくなる  
立ち上がって  
水を飲む  
水も凄い

## 『夜』

夜 どこからか  
湯のたぎる音  
微量の 毒は 薬  
ヒトはヒトを 侵す 気づかずに  
言葉なく 流れる 心  
ヒトへ 闇へ  
僅かな灯火へ

## 『そして』

夏になれば  
また  
蝉が鳴く  
花火が  
記憶の中で  
フリーズしている  
遠い国は  
おぼろだが  
宇宙は鼻の先  
なんという恩寵  
人は  
死ねる  
そしてという  
接続詞だけを  
残して

同志社グリーンクラブ

名誉顧問 遠藤 彰	顧問 岸 基史	ヴォイス トレーナー 二塚 直紀
幹事長 吉岡 和哉	会計 村瀬 賢大	学生指揮者 小林 崇諭
副幹事長 永柳 衡	園田 雅樹	学生副指揮者 元吉 圭太
内政 吉岡 和哉	OB担当 森脇 和人	Top Tenor Part Leader 小林 崇諭
金谷 章文	ローテーション委員 田中 健之	永柳 衡
外政(四連) 西川 潤	全同志社メサイア実行委員 三木 雄介	Second Tenor Part Leader 村瀬 賢大
秦 和宏	園田 雅樹	上本 泰寛
外政(大阪・兵庫) 森脇 和人	種田 成昭	Baritone Part Leader 元吉 圭太
三木 雄介	富田 晋司	Bass Part Leader 金谷 章文
外政(京都) 西川 潤	資料担当 上本 泰寛	
三木 雄介	ホームページ担当 山中 彰	
ステージマネージャー 園田 雅樹		
山中 彰		

TOP TENOR

小林 崇諭 (文4・宇都宮)	松本 和也 (工2・宇和島東)	種田 成昭 (経2・上宮太子)
三木 雄介 (商3・東住吉)	嶋田 裕一 (神2・智弁学園和歌山)	藤田 尚人 (経1・摂陵)
永柳 衡 (商3・京都成章)	杉田 康和 (神2・北陸)	

SECOND TENOR

村瀬 賢大 (法4・津)	上本 泰寛 (経3・崇徳)	諸岡 大間 (法1・大阪桐蔭)
吉岡 和哉 (商4・関西大倉)	田中 健之 (法2・八頭)	坂井 良行 (経1・関)
秦 和宏 (経3・大成)	二橋 健太 (工1・清風)	辻 那由他 (経1・朱雀)

BARITONE

森脇 和人 (法4・郡山)	石田 大士 (文2・春日丘)	安達 尚弘 (商1・岡山城東)
元吉 圭太 (工3・春日丘)	若木 太郎 (文2・鳥取西)	青木 和仁 (経1・京都成章)
園田 雅樹 (工3・高岡)	山中 彰 (経2・智弁学園和歌山)	浅岡 裕貴 (法1・名古屋市立向陽)

BASS

西川 潤 (商4・近大附属和歌山)	正川 勲 (経2・洛南)	前田 忠之 (法1・清風)
金谷 章文 (法3・帯広三条)	富田 晋司 (文2・天王寺)	坂田 敬次 (工1・浪速)
根津 仁詩 (神2・夢野台)	小崎 純一 (社1・春日丘)	嶋田 公典 (法1・高槻)



親子の心が近づく一冊、子どもの心を育てる一冊

親子で読みたい、近代・現代の名文を集めた珠玉のシリーズ

心を耕すシリーズ



【なかよし～心を豊かに、優しく～】  
●小学校1・2・3年向け  
芥川龍之介「蜘蛛の糸」、  
島崎藤村「小さなみやげ話」など



【親切・感謝～優しさ、思いやり～】  
●小学校4・5・6年向け  
宮澤賢治「セロ弾きのゴーシュ」、  
菊池寛「形」など



【自立と共生～社会性を養い、世界にはばたく～】  
●中学生・高校生向け  
森鷗外「高瀬舟」、  
高村光太郎「詩「牛」」など

●A5判<定価>各1,050円(本体1,000円+税5%) [発行] 財団法人 日本漢字能力検定協会 / 財団法人 日本漢字能力検定協会 理事長 大久保 昇 編  
全国有名書店で好評発売中! インターネットhttp://www.kentei.co.jp/からもご購入いただけます。インターネット以外の購入方法をご希望の方は、協会までお問い合わせください。

日本漢字能力検定は年3回実施しています。

財団法人 日本漢字能力検定協会

理事長 大久保 昇 (1958年卒)

本部 〒600-8585 京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町398 ☎075-352-8300  
東京事務局 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビル ☎03-5205-0333  
http://www.kentei.co.jp/  
携帯電話からも利用可能! (iモード・EZweb・ポータフォンライブ!) に対応

※「漢字検定」「漢検」は登録商標です。



日本教育旅行 (株)

〒600-8155 京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入

心と体を鍛えよう!!

合宿・ゼミ旅行。スキー旅行・  
一泊コンパ・海外旅行などなど...  
何でもご相談下さい。

0120-040566

075-351-0405

# 第101回同志社グリークラブ定期演奏会OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。  
誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

昭和24年	長島 俊司	昭和36年	三好 長孝	昭和46年	大西 秀孝	昭和54年	左 嵩 俊彦
	西村 隆三	昭和37年	三宅 健司	昭和47年	岸山 信雄		福澤 敬
	豊田 俊一		田中 惺		高橋 博	昭和55年	千代沢修一
昭和25年	岡本 俊夫	昭和38年	森本 久光		石井 康揮	昭和57年	芦田 直幸
昭和26年	富永 光雄		林田 慎也		竹本三千雄	昭和58年	高井 啓行
	真下喜二郎		真野 光長		片岡 功	昭和59年	鋒山 琢磨
	福永 嘉彦		幸田 長明		木戸 敏博		豊田 尚紀
昭和27年	土肥 通夫	昭和39年	後藤 健夫		相川 義直	昭和60年	白井 幸彦
	都木 直文		西川 紀行		世良 政則	昭和61年	久保 行央
	日下部吉彦		岩木 六馬		目 秀雄		植田 禎一
	今西 政弘		畑中 宜彦	昭和48年	坂倉 正信		尾池 智治
昭和28年	正木 康雄		鈴木 謙介		吉田 重春	昭和62年	松本 裕士
昭和29年	朝倉 盛正	昭和40年	大熊 政次		横尾 修		中村 洋
	吉田庄之介		渋江 膺一		木村雄二郎		杉田 政治
	野村 秀治		磯部 俊英		木村 行夫	昭和63年	梅田 隆司
	吉川悟一郎		堀部 勝也		島橋 宗久	平成01年	田中 祐之
昭和30年	門田 耕一		竹上 一郎		永田 裕	平成04年	西浦 泰郎
昭和31年	野村 忠		山田 至孝		中辻 隆	平成05年	内桶 貴志
	澁谷 昭彦		中川 清		平井 雅則		田中 佳之
昭和32年	湯浦 章	昭和41年	小亀 豊	昭和49年	中川 嘉一		鐵見 太郎
	大島 昌夫		北村 徹男		橋本 晴海		林 克己
	森 泰一		木下 利彦	昭和50年	新井 克次	平成06年	岡 勇蔵
	高木 勝元		小川 徹		池田 周一		谷本 啓
	犬井 晃		森田 恒孝		今藤 恵証		市之瀬 崇
昭和34年	芳崎 栄治		大原 康弘		平瀬 芳雄		浅海 誠
	浅田 隆		橋詰 崇史		松村 俊明	平成10年	小林 香太
	大友 慶介		影田 武道		林 修	平成11年	森 雅章
	森田 秀夫		滝沢 裕人	昭和51年	河村 淳	平成12年	弓山 達也
昭和35年	砂原 和彌	昭和42年	澁谷 和彦		村上 利行		内田 和孝
	小林藤太郎		栗山 昭男		小林 克良	平成13年	澤田定一良
	田中 忠男		館 和道		井上 誠	平成14年	渡辺 哲平
昭和36年	森本 潔		吉田 孝昭		薄井 篤	平成15年	奥貫 莊史
	山田 英二		山根 礪	昭和52年	山下 裕司		伊藤 稔
	田村 量基	昭和43年	川上 貴裕		松本潤一郎		淵本 友隆
	下津 啓誠		神谷 洋司		高谷 博次	平成16年	川面 哲
	渡辺 弘道		荒井 直		山本 英司		蓮池 章弘
	川添 正	昭和44年	藤田 和久		井口 仁	平成17年	松岡 元気
	村田 由高		雨森 伸爾	昭和54年	廣瀬 健		林 武史
	朝比 久雄		坂東 憲治		樋上 雅人		
	横田 義		檜垣 康		矢ヶ崎一之		

\*尚、べ切の関係上、掲載できなかった先輩方もおられます。

## 編集後記



### 山中 彰 (左端)

初めて演奏会のマネージに参加し、先輩方のすばらしさが身にしみて実感できました。

来年もよろしくお願いします！

### 種田成昭 (左から2番目)

皆さん、今日は定期演奏会に来ていただきありがとうございます。どうぞ演奏会をお楽しみ下さい。これからもグリークラブをよろしくお願いします。

### 富田晋司 (右端)

このパンフレットのことを思い出すたびに手に取ってばらばらとめくっていただければ幸いです。来年は頑張りたいと思いますのでどうかよろしく！

本日はお忙しい中御来場下さいまして、誠にありがとうございます。最後になりましたが、このパンフレット製作にあたりまして、快く原稿をご執筆下さいました諸先生方、広告並びに、協賛を頂きました皆様、西湖堂印刷の吉村社長、その他この日のためにご尽力下さいました全ての方々、そして何より本日御来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも同志社グリークラブへのご声援よろしくお願いいたします。

第101回同志社グリークラブ定期演奏会パンフレット  
2005年12月10日発行  
発行：同志社グリークラブ／印刷：西湖堂印刷株式会社

### 三木雄介 (右から2番目)

お客様方へー本日のご来場、誠にありがとうございます。今宵はどうぞ心行くまで堪能ください。また、当月24日の全同志社メサイア演奏会にも、万障お繰り合わせの上、是非とも御足労くださいませ。

先輩方へーいつも下さった僕等へのお心遣いには、来年の定演にてお応えしようと思っております。ありがとうございました。お疲れ様でした。

後輩達へー来年頑張ろうな。

### 秦 和宏 (中央)

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。そして、本日のステージを存分に楽しんでください。また、来年もぜひご来場ください。

2005年 師走 同志社グリークラブ一同

同志社グリークラブ  
101周年度卒団生のための

## フェアウェルコンサート

2006年2月11日 (土)  
同志社大学「寒梅館」ハーディーホール

## 第55回

## 東西四大学合唱演奏会

同志社単独演奏 (未定)  
四大学合同ステージ 委嘱作品初演  
指揮:伊東恵司

2006年6月25日(日)京都コンサートホール大ホール

## 第102回同志社グリークラブ定期演奏会

2006年12月9日(土)  
京都コンサートホール大ホール



人と企業を結ぶ エントワグループ

企業には明確なビジョンが、人材には高い志があったほうがいい。  
その双方を結ぶ架け橋になれることが私達の願いです。

■株式会社エントワ 東京都港区赤坂8-5-42  
TEL (03) 3475-5620  
<http://www.mmjp.or.jp/entowa/>

■株式会社エントワ大阪 大阪市中央区天満橋京町2-13  
TEL (06) 6945-6625  
<http://www001.upp.so-net.ne.jp/entowa-osaka/>

■株式会社エントワ・リンク 川崎市多摩区長沢3-3-30  
TEL (044) 975-3284

## ▽ GleeClub 同志社グリークラブ

## 依頼演奏募集中！！

同志社グリークラブでは随時演奏の依頼を受け付けております。

詳しくは一度お電話ください。

(なおクラブの日程の都合上お断りすることがございます。)

担当:永柳 衡 080-3130-2705



## カラーのチラシ作りたい…けど、 予算がないと、あきらめてませんか!

希望いっぱいの演奏会。「予算がないからチラシは1色刷りで…」と思ってませんか?  
西湖堂印刷開発部では、このたび画期的な制作方法の転換により、  
従来の1色刷以下の価格でカラーのチラシを制作する方法を実現いたしました。

たとえば・・・

B5サイズ・カラー4色刷りチラシ  
2,000枚で¥29,400 (@14.7)  
8,000枚で¥67,200 (@8.4)

◆お問い合わせ 075-351-9127(吉村)まで  
[info@saikodo.com](mailto:info@saikodo.com)

●チラシご注文時にご用意いただくモノ  
使用したい素材(写真・イラスト等)  
入れたい文字情報のテキストファイル  
希望のレイアウト(手書きでも可能です)

基本となる原文案をお持ちいただいて、  
それを修正しながら進める方法をとれば、  
営業範囲のデザインということで、  
無料でデザインについてアドバイスができます。  
当社の経験とノウハウを有効にご利用ください。

 SAIKODO Printing Co., Ltd.  
西湖堂印刷株式会社 ● 京都市下京区高倉通四条下ル ● TEL.075-351-9127 FAX.075-361-4096

どれを選んでいただいても  
「J-オイルミルズ」の商品です。



「豊年」



「AJINOMOTO」



「ゴールデン」

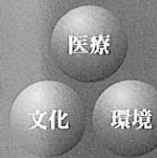
# J-オイルミルズ

ホーネンコーポレーション、味の素製油、吉原製油は、  
ひとつになりました。



株式会社 J-オイルミルズ

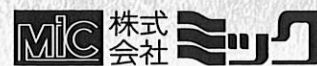
〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー  
ホームページアドレス <http://www.j-oil.com/>



医療・文化・環境への貢献



■ミックグループ



東京都新宿区新宿1-8-5 TEL : 03-3350-1661  
<http://www.mic.jp>

▶ ドクタージャパン株式会社

東京都新宿区新宿1-8-5 TEL : 03-3226-4731 [http://www.mic.jp/business/dr\\_japan](http://www.mic.jp/business/dr_japan)

MIC 美凱 美凱(大连)科技有限公司 MIC(DALIAN)CO.,LTD.

# HITACHI Inspire the Next

## IT NEEDS HARMONY

ビジネスや生活を支えるITには“ハーモニー”が必要です。  
オーケストラがタクト一本で思いのままの音楽を奏できるように。  
ジャズバンドが自由自在にインプロビゼーション(即興)を展開するように。  
複雑さを意識させることなく、変化へ柔軟に対応することが求められています。

**uVALUE** with Harmonious Computing  
次のビジネスをインスパイアする。それがuVALUE。

### 日立がビジネスシーンにおすすめする Windows® XP Professional

#### BUSINESS PC NEEDS TRUST

ビジネスツールとしてのパソコンには、パートナーとしての信頼感が不可欠だ。

ITインフラが生み出すハーモニーを、実際にあなたの手元で“奏でる”クライアントパソコン。これはもはやビジネスに欠かせないツールであり、空気のような存在だといってもいいでしょう。より安心してビジネスを進めていくには、パートナーとして信頼できるクライアントパソコンが必要です。製品の性能や品質はもちろんですが、運用性や信頼性の高さ、さらにその製品を提供するベンダーのサポート力も、製品選択の重要なポイントになるのです。このようなご要望にお応えするのが、日立のビジネスパソコン「FLORA」。業務効率を高める高性能やさまざまな脅威からビジネスを守る各種セキュリティ機能はもちろんのこと、3年間無償保証や全国をカバーした、迅速な保守サービスの提供、さらに統合システム運用管理「JP1」との連携強化など、日立ならではの数多くの特徴があります。また、幅広い製品ラインアップを用意し、お客さまのニーズに合わせて活用いただけます。

- 業務効率を高めるHTテクノロジー インテル® Pentium® 4 プロセッサ
- 信頼の3年間無償保証
- ビジネスを守る各種セキュリティ機能
- 統合システム運用管理「JP1」とも連携



A4エントリーノート  
FLORA 250W

・インテル® Pentium® M プロセッサほか  
・Microsoft® Windows® XP Professional



液晶オールインワンモデル  
FLORA 310W

・HTテクノロジー インテル® Pentium® 4 プロセッサほか  
・Microsoft® Windows® XP Professional

日立ビジネスパソコン  
**FLORA**

[www.hitachi.co.jp/pc/](http://www.hitachi.co.jp/pc/)



コンピュータの頭脳  
インテルのテクノロジー

・インテル、Intel、Intel Inside、Intel Insideロゴ、Pentiumは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたは、その子会社の商標または登録商標です。・Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

株式会社 日立製作所

インターネットプラットフォーム事業部

■お問い合わせは、HCAセンター ☎0120-2580-12 (9:00~12:00/13:00~17:00 土、日、祝日を除く) または各支社へ

●北海道 (011) 261-3131 ●東北 (022) 223-0121 ●関東 (03) 3212-1111 ●横浜 (045) 451-5000 ●北陸 (076) 263-0551  
●中 部 (052) 243-3111 ●関西 (06) 6616-1111 ●中国 (082) 541-4111 ●四国 (087) 831-2111 ●九州 (092) 852-1111

おいしさとやすらぎを  
**ハウス食品**  
housefoods.jp

山に磨かれた水、  
時に磨かれた水、  
私は六甲。

ジョン・健・スツツオ

House  
**六甲の美味しい水**

六甲山系の花崗岩に磨かれた、  
おいしさと安心のナチュラルミネラルウォーターを  
原水のおいしさを保つため、  
熱を加えない「フレッシュ無菌パック製法」で  
皆様にお届けしています。

500ml 1.5L 2L